

空堀商店街の西側、松屋町筋に面した入口近くからほりサロンはあります。「商店街に店開いてはるけど何を売ったはるのやろ」不思議がられ、介護関係の店と思いい相談に来られたり、介護用品を買いに来られたりもします。

さて、私たちの活動は、高齢の皆さんの外出に同行することです。14年前にボランティアの交通費実費のみで活動を始めました。電話で高齢者とボランティアをつなぎ、出かける所や日時を打ち合わせ、お墓参りや美術館、病院など、どこにでも出かけます。机と電話さえあればいいのですが、気軽に来ていただ

き「顔と顔にであいたい」のです。サロンで交わされる話題から活動のヒントがあればと訪れてくださるのを待っています。サロンでは映画会をしたり、絵手紙、大阪の文学を読む会、学びもしています。文学を読む会、福田先生は小説の組み立てや書かれた時代の背景などを語られ、楽しく興味ある時間です。月一度の食事会も和やかな楽しみがあります。ほかに、春と秋に利用者さんと遠足に出かけ外の空気や風景を楽しんでいます。コンサートも介護者、家族、高齢の皆様を招待し年二回実施しています。車椅子貸し出し、暮らしサポーター事業、「よそか

からほり「界隈」三拾い
〔毎月第4金曜日〕
9月までは夏時間として午後3時から4時に行います。
午後3時に「地下鉄谷町6丁目駅④出口」にお集まりください。どなたでも参加していただけます。



「第1回商工信金社会福祉賞」受賞しました。(平成19年5月16日)

空堀サロンを支援ください

からほり新聞

第12号
(2007.7.6)

「空堀界隈をご散策される皆様へ」
◆路地の奥は私有地が多いのでご注意ください。
◆美しい石畳や木造家屋にゴミは似合いません。
◆商店街は生活の場でもあります。節度とマナーで笑顔が増えます。
訪れる人が多くなり思いがけない行き違いが起こっている」と耳に挟んだのがきっかけで、地域の方々と訪れる皆様が、紙面を通じ良い関係が築かれたらと空堀新聞の発行もしています。さて、高齢になると人恋しさは募ります。サロンに行けば誰かがいる。茶飲み話ができる。面白い催しがある。ホッとする空間がある。このように、お年よりが住み慣れた町で安心して暮らしていけるような、出会いの場を提供していけたらと願います。
開放されたサロンとして、このサロンの活動が続けられるよう資金の支援者を求めています。個人、団体は問いません。この会の活動にもご理解と参加下さい。又からほりサロンに代わる場所の情報、提供などもお願いいたします。街の憩いの場がな

くならないようにご支援ください。(永井佳子)

からほり伝言板

かみなり亭寄席 奇数月の第2土曜日午後6時30分より。会場:葉業年金会館。出演:笑福亭一門ほか。問い合わせ:06-6768-3549

講談 旭堂 南海(何回続く会) 葉業年金会館5階和室 参加費1,000円 毎月第4火曜日 午後7時~

楓ギャラリー
▶7/3~15・京都造形芸大生映像ワークショップ
▶7/17~22・刑部富美版画展(銅版画)
▶7/24~29・土の香り、人の薫り―第11回にぎわい展―
▶7/30~8/27・夏季休廊
▶8/28~9/9・西家智津子・陶展
▶お問い合わせ☎6761-0388
▶ホームページでは展示内容がご覧になれます。
www.7a.biglobe.ne.jp/~kaede-g/



からほり商店街合同大売出し
7月7日~14日〔8日(日)は抽選会場はお休みです〕

☆編集後記

◆冷麦茶の作り置きはやめて、汗をふきつつ熱い緑茶をすすります。暑気払いだけでなく食欲増進にも◎(高田)
◆ねむの木学園を見ました。子どもの能力を見事に引き出す、ありつたけの愛の力。まり子さんって本当にすごい!(山名)
◆空堀商店街は坂道で、下り坂での挨拶は難しいと気がつき

ました。(永井)
◆暑い。夏は固い棒のごとく、冬はやわらかい丸座布団のごとく。最近、すっかり長く伸びているねこのことでした。毎年のことながら、おかしな生感です。(山本)
◆私のストレッチ。階段を下りる時に「カカト」から下りる。と上る時には2段ごと上がることを学習しました。(竹間)
◆夏ハテせず。がんばろう。(嶋)

特定非営利活動法人
高齢者外出介助の会とは?
お年寄りの皆さんに、より楽しく充実した日常生活を過ごしていただくため次のような活動をしています。
①外出介助(買い物、お墓参り、通院など)
②暮らしサポーター(買い物、薬取り、入院時支援など)
③車椅子貸し出し(お気軽にご利用下さい)
④生きがい作り講座(童謡・唱歌を歌う会、絵手紙くらぶなど)
⑤大阪の文学を読む会(学び)
⑥「からほり新聞」制作
お気軽にお問い合わせください。
大阪市中央区松屋町4-8 メイツ松屋町1階
(おとうふ屋さんのおとなり)
TEL&FAX 06-6764-4002
月~ 金(10:30~15:00)
E-mail: odekake@helen.ocn.ne.jp
ホームページ: www.9.ocn.ne.jp/~ode-kake/

「からほり新聞」は高齢者外出介助の会に集う有志が、愛する「からほり」の賑わいを願って作っている無料のコミュニティ紙です。ご意見・ご感想・投稿・イベント情報などお待ちしております。また、「新聞置いてあげてもいいよ」とおっしゃってくださいのお店も大募集。
「からほり新聞に参加したいな」と思われる方、大歓迎です。気軽にご連絡ください。(現在45カ所設置)

マリンバを楽しみませんか?
毎週木曜日「からほりさろん」で教室をしています。見学・体験(1回)大歓迎!!
くわしくは高齢者外出介助の会でお問い合わせください。
指導:北口 桂

喰べ処 呑み処 おそうぎいの店
島やん
谷町6丁目12-8 TEL 6762-9288
営業時間:PM5:00~11:00(定休日:月曜日)

緊急座談会 どうなる？ どうする？ からほりサロン

存続の危機、からほりサロン

2004年5月の開設以来、高齢者外出介助の会の利用者に限らず、通りすがりの方に気怪に立ち寄って頂き、にぎわって来た地域のたまり場「からほりサロン」が存続の危機にあります。そもそも、商店街の3階にあった高齢者外出介助の会の事務所兼サロンスペースをいろいろの人が立ち寄れる商店街に面した1階に移したいとの永井の想いから構想がスタートし、想いもよぬ大きなご支援で実現したのが、サロンの始まりでした。

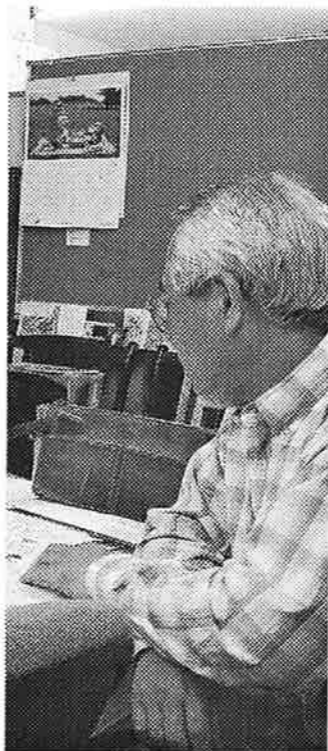
当初は、2年ほどかけてこのサロンの価値を地域の方と広く社会全体に分かって頂き、継続して運営していく仕組みをつくれたら、というつもりでした。しかし物事はそううまくいかず、「楽しい場」はできたのですが、時間が経過し、資金が底をつきようとしているのが現状です。

年明け早々の時点で、諦めてもつと家賃の安いところに移転するという決まりかけていたのですが、なんと神風が吹き、去る4月18日に大阪商工社会福祉会賞の受賞が決まり、100万円を頂くこととなり、当面の運営資金の目的がたつたのです。

しかし、喜んでばかりはいられません。賞金によるサロンの運営は、一時しのぎはできて、問題を先送りにするだけです。そこで、今後、からほりサロンはどうなっていくのか、本音で語り、読者の方からもご意見を頂こうということで、緊急座談会を行いました。

今回は「からほりサロンお散歩マップ」をお休みとさせて頂き、座談会の内容をご報告します。

(山本一馬)



座談会

▽山本 さて「からほりサロン」の今後、どうしましょう？

▽永井 サロンの運営を支援してくれる企業を本気で探そうと思っただけです。寄付というしんどいから「サポーター」としてお願いしようと思っただけです。

▽山本 このまま運営を続けても尻すぼみ。スッカスカになる前に手を打たないと…。

▽山本 基本的に、永井さんがリーダーである外出介助の会がお金を稼ぐ組織になることは難しいよ(笑)。

からほりサロンは、現在のボランティア活動を主とした団体の事務所としては贅沢。そもそもこのサロンに移る際にも反対意見はあったが、誰もが自由に入出入りできる地域に開かれたサロンを構えることは永井さんの夢で、あかんようになったら、やり直したいというのが僕の考えだった。問題は家賃負担だけ。

▽山本 サロンの現状からすれば、場所貸しのような形で収入を得ることが一番わかりやすい。より広く社会から資金を確保するという手もあるが、広く活動しないといけない。

▽山名 これまでの運営は、毎年のわずかな賛助会費と、時々大きな寄付で成り立っていた非常にラッキーな形態だった。

▽太田 困ったら、神風が吹いたわけですよ。無償もしくは格安で貸してくれるような篤志家の物件や公的な施設に入ることですよ。

▽永井 私も、現状をよしとしているわけではありませんが、このサロンには相当な初期投資をしたので、それを無駄にしたくない。だから粘ることにした。それにしても難しいので、活動規模に対して身に余るところだったんだと、今頃になって気がつきました。

▽山本 事務所の存続のことばかり話題になってますが、会の体制の問題



もありますよね。多少資金面で大変であっても、ボランティアさんが集まったり、次の後継者が見えてくるなら価値がある。場所が確保できても人が集まらなかつたら本末転倒です。

▽永井 後継者のことは2パターン考えてます。ひとつは、やっぱりサロンに集まっているメンバーの中から来てきたらいいなあということです。もうひとつは、若い人が集まっている福祉系NPOとの合併を模索したいと思っています。

▽太田 NPOの生き残り策として合併という選択肢はあると思う。

▽山名 日本では福祉系の事業者の経営感覚が乏しい。日本の作業所で作られているもの多くは一般の商品として通用していない。

▽山本 尼崎市内の商店街の中に複数の作業所がひとつのスペースを運営しているところがありますよ。

▽山名 中央区内の福祉系事業者が集まった会議の席で、複数の事業者が連携して空堀商店街に店舗を出そうということを目指して掲げた。そういう目的でこのサロンのスペースを使えば立地特性を活かすことができる。このからほりサロンという場所にこだわるなら、商店街との連携が前提となる。いっそのこと、からほりサロンでお土産でも販売したら？

▽太田 そもそも商店街や作業所などの連携は、高齢者外出介助の会のミッションに合致するだろうか？

▽永井 結局、外出介助の会のミッションの問題なのか、からほりサロンという場所の問題なのかを考えないといけないんですよ。

▽太田 どういう始め方をしたかですよ。当初の目的はあったんだけど、段々と組織を維持することに目的が替わってしまう。僕は当初の目的が大切で、そのためには身の丈にあった場所で続けることがいいと思う。根本をしっかりと押さえておかないと組織自体が変わってしまう、何のためにやっているのかわからなくなりがね。

▽山名 はっきりしているのは、問題を放置していたら、この場所にいられなくなるということ。ミッションを大事にするならこの場所をあきらめることであり、この場所を大事にするならミッションを曲げてでも採算性を考えること。

▽永井 外出介助の会の活動だけなら、こんなスペースもいらぬし、サロンの活動もやめればいい。

▽太田 サロンの活動は会のミッションであり誰も否定しません。ただ、高額の家賃を払わなくてもできるということですよ。あんまり悩まなくても神風が吹いて存続できるかもしれないけど(笑)。

▽山本 でも、不安定な状態では、後継者が育たないのでは？

▽永井 「人を大切に」という想いだけ引き継いでくれればいい。

▽山本 サロンの取り組みはチャレンジだった。揺れているのは、この3年間で果たしてちゃんとチャレンジしたかどうかでしょう？

▽山名 いやー。サロンの成果は大きいですよ。すごいネットワークが生まれたじゃないですか。僕はそれで十分だと思いますよ。

▽永井 やっぱり、続けていけたらいいなあー。

▽太田 この場所を維持するなら、一番いいのは事務所をシェアすることじゃないですか。ちゃんとここに腰を据えて半分費用を負担しますよというふうなところを探さないと。

▽山本 サロンという楽しい場は仲良く共有するけど、その他のところはちよつと距離があつて、割り切れるところがいんじやないですか。どうせシェアするなら高齢者外出介助の会の課題である高齢者以外の層との連携ができるようなグループがいいですね。

▽山名 お年寄りが夕方の時間から集まる飲み屋はどうですか？お年寄りが飲みに行くところって結構ないんですよ。毎日交流会を開くということ、若い人との交流もでき、一石二鳥になるで！

▽山本 これまでの話では、年内は頑張ってみて、無理なら諦め、身の丈にあったところに移るんですね。前の3階の事務所20年続けるより、ここで3年やったことで十分意義はありましたよ。

▽太田 何をやってきたかが大切で、存続が重要ではないですよ。

▽山本 じゃー、まとめます。ミッションは曲げない。資金のために主旨を忘れてばたばた動くぐらいなら、静かになくなっていい。サロンには魅力がいっぱい。サロンに共感してもらって、事務所スペースをシェアできるような定期利用者を探さ。口だけでなくすぐに行動に移すこと。ただし、年内という期限を設ける。

▽太田 公的な起業支援施設に入っている団体に声をかけてみます。

▽山本 地域の団体にも声をかけましょう。山名さんお願いします。

▽永井 そういう話は少ししていますが、説明できるペーパーが必要と言われています。

▽山本 はい、早く作りましょう！

▽太田 そろそろ場所を替えて交流会をしましょう！ 以上





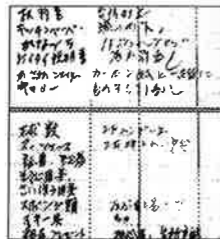
水尻さんの活動を紹介します。ホームページは、「はつつほ家」というタイトル。現在お住まいの自宅が、8坪程度(約27㎡)というところから来ている。スッキリこぢんまりとした部屋だが、そこには様々な工夫が詰まっている。

例えば、押入の襖板を外してコタツとテレビラックの上に架けると8人がけのテーブルが出来たり、収納棚の扉を外すと仏壇になっていたりする。日用品

から小物まで、何処に何が収納されているかを明らかにし、すぐに使える状態になっているのだが、その象徴的なアイデアがアドレス帳を利用した「どこに?帳」だ。ア〜ワの個人名を書く欄に「家電製品説明書」など、忘れがちな品物を書き連ね、住所欄に「押入れ2段目右奥の箱」など、所在地を明記してある。そして押入を開けると、壁には収納品の見取り図が貼ってあるといった具合。

まるで、シンプルなラッピングを解いた途端、膨大な数のパズルピースがあふれ出すかのよう、その空間にはアイデアが詰まっている。「よく整理好きの掃除好きなんです」と言われますが、全く逆。楽しみたい

どこに?帳キャプション→
収納して忘れがちなモノが人目でわかる「何処に?帳」。所在地は、後から変更できるように鉛筆書き。



←冷蔵庫側面

常備品はプレートで管理文字が逆向きだと「要補充」。順番はスーパーの売場のレイアウトに対応している。

「高価」に豊かさを思い出すのではなく、簡素だからこそ機能的で居心地良い生活だ。そこには必要最小限のモノを工夫して活用する「楽しみ」があり、そうした心地良さから生まれる「心のゆとり」がある。「大量生産と大量消費で、使い捨てが当た

(高田次郎)

快傑ーからほり人

快傑ファイル其の十一

前編

収納コンサルタント

水尻みちさん

テレビや雑誌でこの名前を見聞きした人も多いでしょう。企業や個人に、便利で快適な収納術の提案や指導をする水尻さんの活動は、平成11年からほりに住み始めて始まりました。そんな水尻さんのお仕事やこれまでの経緯を、前後半に分けてお届けします。

帰り道、ちょっと、より道

仕事帰り

松屋町筋から空堀商店街へ、ここで、まず路地の抜け道を探る。浮かべてみるのだが、決めても急に別の路地へと抜けたくなることしばしば。

気配はもうどこにもない。そこから少し行くと床屋さんの横の路地に入ると、左手に小さな鳥居がある。夕方八時近くになるともう薄暗い。立ち止まって手を合わせようとした時、人の来る気配がした。

壁に沿って置かれてる縁台に、夏の談笑風景を浮かべながら、小さな道を越して次の路地へ。今度は鳥居を入って細い奥まったところに祠がある。暗いのでちょっととまどったが奥へ進んだ。

「したい気持ちになる。だが、お願いすることが多すぎて、一つに決めかねていると、暖冬に早まって出てきたのか、虫の声の催促か?」 今度持ってくるからごめんね。ここから通りへ出るともう我が家。こうして今夜の路地探検は終わりです。さて、明日はどこを通過して帰ろうか? (にしお みつこ)

路地雑感

大切な愛

2004年12月、東南アジアに大津波が押し寄せました。その為、インド洋に面したケニヤのマリンデイで、群れをなして生活していたカバの赤ちゃん「オウエン」が、ひとりぼっち海にとり残されたのです。海草のからまる、さらさらしたサンゴ礁の上で身動きできなくなっていたのを、

地元の人や観光客の多くの人があつと助け出しました。カバの生息しやすい環境を専門家が用意した公園で、130歳の大きな大きなゾウ亀「ムゼイ」をお母さんと思つて後ろにまとわりつき、嫌がっていた亀もだんだん許すようになり、ふたりが仲良く生きていく愛と友情の話です。

この話を6歳の少女がとりあげ、本にしました。今やこの心温まる話は世界中に広がりみんなの心をとりにしました。そしてこの話に感激したタレントのベッキーが日本語に翻訳しました。



(NHK出版刊) 定価1,260円

空堀古今

空堀と言っても今のわたしにとっては余りにも身近過ぎて、毎日買物に来る場所であり、動画の「コマコマ」が一部変わってもわからず集まってもその違いに気付くようなもので、戦前の公設市場（今のエール）で買物をした頃から随分長い年月が経っているのに、毎日通っていると特にわからない。

空堀通り、東は玉造から始まって上町筋まで、西は松屋町筋に至るまで約2km位？よく似た距離に二分される様に思える。ウン十年生きてきた私にとつて東の空堀は、生誕の地であり近くに三光神社あり（男の子に負けないやんちゃだった子供の頃の一番の懐かしい遊び場所）陸軍基地あり、どんだろ大師あり、今日の空堀とはまた違ったよい店が沢山あった。

やがて大東亜戦争が始まり、終戦の年六月一日に空襲に遭い、

住み慣れた空堀山之下町の我が家が焼失し、学徒動員で大阪駅に勤務していた為爆撃の難を逃れたが（一旦空襲に遭うと省線、今の環状線も全線がストップ）駅から歩いて上二まで辿り着いたときは見渡す限り玉造まで一面に焼け野原だった。勿論空堀筋は全滅。

行く当ても無く、とりあえず母校の真田山小学校に行き、おにぎり一個をいただき、母と会えて生きていたことを喜び合った。当時父は招集されて居らず中支で戦死。

余談になるが、戦後の10年程といえば、今の高齢者のほとんどが体験済みと思うが今の恵まれた若い人には想像もつかない日々だった。先ず食料。その日の食べ物にありつけることが一杯で、パン屋はおろか、食べ物やなど一軒もなく、市から配給のおいもさん、とうもろこしなどで飢えをしのいできた。戦後のこととして国からは何の援助もなく身よりも無く五人きょうだいの長女であった私は母と祖母と七人狭い一部屋で雨露を

しのがせてもらい、昼は学徒動員で大阪駅改札係として働き、夜はローソクの火で食事をといたう時も続きました。それが今もええ苦勞したという気はあまりりしない。それは若さだと思えばいい。若さというものは如何に素晴らしいものか、今にしてつくづく思う。もっと進学したかった夢もおさえ、先ず生きていく為の糧を得る為、始めた洋服店。服地なども未だ無く、お客様持込の布地で作る洋服。はやってはやって（7〜8人で）とにかく徹夜もいとわずよく働きました。TVはいまだ無くラジオだけ。それでも遊ぶ方も思い切りエンジョイ。

このような苦しい時代を経て現在の松屋町に住まいしてまたからほりとの縁が始まって四十数年が経とうとしています。こちらの方が、ずっと長い、やっぱりからほりとは深い縁があるようです。

永年受継がれて来た歴史あるあらほり、之からも親しまれる長い繁栄が続きますように。
（橋爪良子）



消えていく空堀

高齢者外出介助の会

事務局長 永井佳子

空堀サロンの向かい側は長屋で崩れかけています。すがうだつも上がって立派です。漆喰の下地が傷みでむき出しになっていくのですが、どこに繋がっているのだろうと入ってみたい衝動に駆られます。この路地が消えるのです。私たちにお金があったらと何度か思いました。お年寄りの昼食を出す食堂がしたいと夢を見ていました。それが、マンションになるという噂です。その一角に住んでいたAさんが先日お別れの挨拶に見えました。Aさんはここに住み続けられるものと思っていましたから

意外でした。Aさんから学徒動員で郵便局に行っていた話や、今頃郵便局に行くとお客さんの並んでいるのも知らんふりで、そんな局員を見ると私達の時代を思い出して腹が立ってくる。郵便局への思い入れを語られたこともありました。若い頃は食堂を経営されていたようですが、大嫌いだ。たと苦勞話も聞きました。叔母さんの代から80年住んでいたようで、「私はここで死ぬと思っていたから一瞬間が真っ白になった」と寂しそうでした。また一人空堀を知った方が去っていかれ寂しさが増えました。



車椅子から眺めれば

（拡大教科書の項、続編）

今回はボランティア頼りで手不足につき「ご協力」をお願いでしたが、障害を持つ子たちの教育について、もう少し。教科書をどのようにするか、事前相談で、親子の希望が違うことがよくあります。

子供は今の視力で、一番見やすい大きさの文字で作って欲しいのですが、親は見える限界に近くても、普通の教科書に近いものをと対立することがよくあります。

社会に出れば特別な支援なしにやっつけていかなければならないので、親の思いは子供のうちから馴れて欲しいのです。

障害のある子は、養護学校で「特別な教育」が一般的でしたが、今は、

街の車いすおじさんから⑤
高齢や障害のために車椅子生活になることは誰にでも起こるかも...そんなことになって気が付いたり考えたことを連載で。

小学校から普通学級で一緒に学ぶのが「共に暮らす社会」の在り方として推進され、普通学級入学が増えてきました。

学校側も支援教員を付けるなど、通学しやすい環境を整えてきています。しかし、中学からは擁護学校に戻る例が多くなっているそうです。

いろんなぶつかり合いの中で、お互いへの接し方を自然に身につける普通学級。特別教育でその子の障害を補う技術などを取得し、適応能力を育てる擁護学級。

親の願いと子供の希望を叶え、社会に出た時に本当に良かったと言えるようにするのは？

ハンデイのある人も一緒に暮らせる世の中とは？

地域に根ざした真心のケアがモットーです。

（有）ライフ・ステージ（寝具の白石）

介護のことなら

ケアサポート「關だまり」

中央区上本町西3-3-24 ☎6767-1131

家庭的な雰囲気ホットでできる空間

デイサービスセンター「關だまり」

中央区上本町西1-3-17 ☎6767-1300

2級ヘルパー養成講座しています

nagomi
gallery
momo

なごみギャラリー 桃

大阪市中央区谷町7丁目1-48
TEL 06-6768-1370

貸ギャラリー予約受付中

学生・福祉割引有り。
貸教室も予約受付中。
お気軽にご相談下さい。



地域の福祉、みんなで参加

●地域の福祉の充実に、みなさまのご支援をよろしくお願い致します。共同募金は、10月1日～12月31日の期間ですが、年間を通じて寄付金を受付しています。●大阪府共同募金会事務局は、谷町7丁目交差点を信号1つ西入ルの大阪社会福祉指導センターの2階にあります。どうぞよろしく。●ホームページをぜひご覧下さい。http://www.akaihane-osaka.or.jp

ベジ
グリーンフィンガーズ

おいしい珈琲・紅茶
お昼のごはん880円

数量限定
毎日12:00頃～4:00頃 無くなるまで野菜たっぷり、目の前にある食材で作りますので、献立は毎日変わることがあります。変わらないこともあります。



営業時間
11:00-19:00
定休日
水曜（祝祭日営業）

中央区瓦屋町1-6-2 惣1F
TEL/FAX 06-6763-1983

当店で使用するお食事、お菓子類に白砂糖、動物性食品、化学調味料は使用しておりません。